

陸内協が創立70周年記念式典

排ガス浄化・再生エネ対応技術を支援

小形携帯発電機用や中大形発電装置用、ポンプ駆動用など、陸上用途の専用エンジン（内燃機関）メーカーを主体とする業界団体、一般社団法人日本陸用内燃機関協会（略称・陸内協、奥田克久会長、東京都新宿区）は今年5月1日付けで創立70周年を迎えました。これを記念して『創立70周年の歩み』を発刊し、11月16日、東京・元赤坂の明治記念館で記念式典と記念祝賀会を開催しました。

同日は会員企業や委員会委員の永年功労者、内発協などの親睦団体からの招待者、経済産業省や海外業界団体からの来賓など、合計233名が列席しました。

記念式典では、奥田会長は開会あいさつとして、「当協会は昭和23年5月1日に会員組織として設立されました。平成11年2月には社団法人となり、平成24年4月には一般社団となり、今日に至っており

ます。内燃機関は原動機として、製品性能を決める心臓部であり、当協会は高出力化・高性能化、燃費の向上、排ガス規制への対応など、これまで多くの課題克服に邁進して参りました」と述べました。

その上で、「当協会は今後とも、会員企業が取り組む排ガス浄化処理、再生可能エネルギー対応、ハイブリッドシステムなど、先進的な技術開発に対する支援活動を中心に、業界団体として貢献できるよう責務を果たしていく所存です」と述べました。

記念祝賀会では、来賓あいさつとして、登壇した4氏がそれぞれの立場から祝辞を述べました。

同日の記念行事は3部構成。1部では記念式典として、70年の歩みをスライドで紹介し、「この10年間で最も活躍したエンジン」のメーカー13社を表彰し、エンジン開発陣の努力を讃えました。2部では脳科学者・澤口俊之氏による「人工知能と脳科学」と題する記念講演会を行いました。3部では記念祝賀会として、委員会委員として多大な功績のあった永年功労者表彰の受賞者70名を壇上で順次紹介しました。



陸内協の創立70周年記念式典の会場